

令和 6 年度 在宅医療・介護連携推進事業 事業活動に関するアンケート調査【推進委員 結果報告】

I.目的

- ・現状の事業活動に対する関係者の満足度及び課題と感じている点、要望する新たな活動等を把握する。
- ・調査結果を今後の事業活動へ適切に反映し、事業の見直しや改善につなげる。
- ・各専門職団体、推進委員、実施主体者双方が事業活動への理解を深め、更なる連携推進を図る。

II.対象者

- 各ブロック推進会議参加者
- ・推進委員
- ・地域包括支援センター職員(沖縄市、うるま市、西原町)

III.回収状況

推進委員・包括 計 78 名へアンケート回答依頼 うち、65 名回答 回答率:83.3%

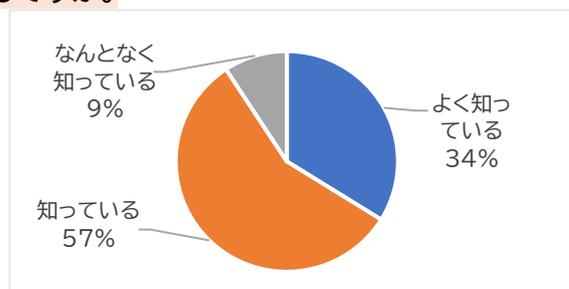
内訳

	沖縄市	うるま市	宜野湾市	広域 A	広域 B	広域 C
対象人数	20	20	13	8	8	9
回答数	16	19	11	6	5	8
回答率	80%	95%	84.6%	75%	62.5%	88.8%

IV. アンケート調査結果

●中部地区医師会在宅ゆい丸センターの事業内容をご存じですか。

よく知っている	22	34%
知っている	37	57%
なんとなく知っている	6	9%
知らない	0	0%



<結果・考察>

- ・アンケートに回答した 65 名の推進委員のうち、59 名 91%の方が在宅ゆい丸センター事業内容を「良く知っている」「知っている」と回答した。会議冒頭の事業進捗報告や、研修会等の案内を行っている事で、推進会議だけでなくその他活動についても関心を寄せていただいている事が分かった。
- ・アンケート結果内訳を見ると、「なんとなく知っている」と回答した 6 名は、委員任期が1～2年目の方だった。

<今後に向けて>

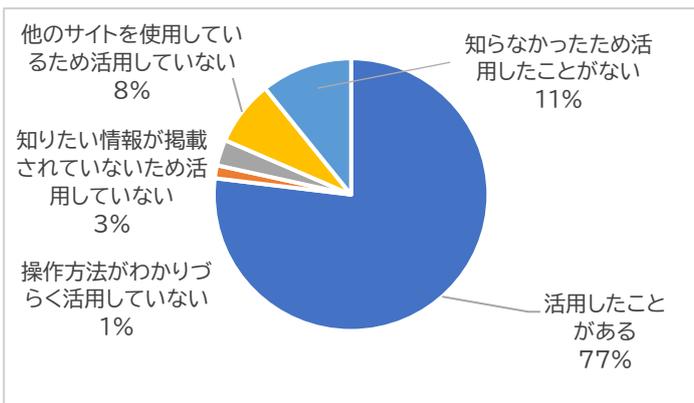
- ・特に任期が 1～2 年目の方にも伝わりやすいよう、活動内容の報告等を心がける。

●地域の医療・介護支援の把握、提供

「医療・介護おたすけマップ」というサイト上で、地域の医療機関や介護事業所の情報提供を行っています。

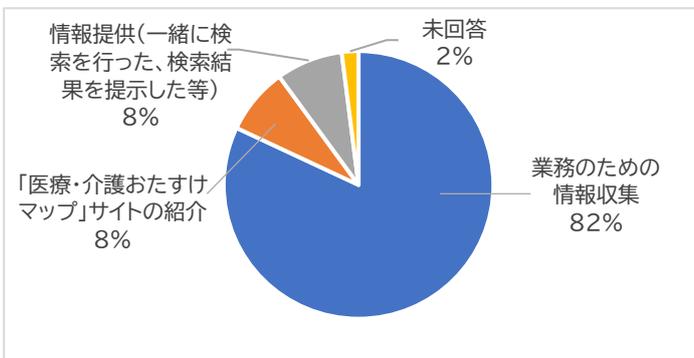
1. これまでに活用したことはありますか。

活用したことがある	50	77%
操作方法がわかりづらく活用していない	1	2%
知りたい情報が掲載されていないため活用していない	2	3%
他のサイトを使用しているため活用していない	5	8%
知らなかったため活用したことがない	7	11%



2. 設問1で「活用したことがある」と答えた方に伺います。どのように活用されたか教えてください。

業務のための情報収集	41	82%
「医療・介護おたすけマップ」サイトの紹介	4	8%
情報提供（一緒に検索を行った、検索結果を提示した等）	4	8%
未回答	1	2%



3. 医療・介護おたすけマップの内容で、改善・工夫が必要だと思う点があれば教えてください。

掲載内容	施設などの空床状況がリアルタイムで分かるとうれしい。
	1ページに表示される件数が少ない。
	土地勘がないと地図アプリの確認もしながらの作業になってしまうため地図アプリ等と連動し地図上で事業所が表示されるととても助かります。
	施設検索で、複数の市町村を検索した際に市町村ごとに閲覧できるようにして欲しい。
	今後地域の情報も分かるとうれしい。 夜間救急受け入れができる医療機関(専門分野)の情報など。
情報更新	情報を提供する施設側の立場として、内容の更新はだれがどのように行うのかが分からない。
	更新 新しい情報
	情報公表とリンクというか同期のような形で更新が楽にできたらと思いました。
	介護サービス情報公表と連携していると、より良い。 定期的な事業所の情報更新やサービス提供範囲などの記載等。
サイト表記・利便性	「施設」と表示されると、介護施設も含まれると理解されがちだと思います。実際に検索者が「介護施設はどんなして調べるの」、とコメントがありました。 「診療所・クリニック・医療機関」と表示してはどうでしょうか？
	介護保険のパンフレットにQRコードに載せてくれるといいなと思います。
	アプリをダウンロードし簡易的に利用できると良いと思います。
周知方法	マップの周知率向上、各市町村がLINEで発信する情報に定位置で載せ続ける。 こうしたシステムを使う場合には、「ソムリエ」ではないですが、ある程度、事情を知ったガイドが必要と感じます。

<結果・考察>

- ・アンケートに回答した 65 名の推進委員のうち、50 名 77%の方が医療・介護おたすけマップを「活用した事がある」と回答した。
- ・前項の事業内容認知度と同様、医療・介護おたすけマップを「知らなかったため活用したことがない」と回答したのは、委員任期が1～2年目の方がほとんどであった。
- ・医療・介護おたすけマップを活用した事がある方のうち、41 名 82%と大多数が「業務のための情報収集」として活用している事が分かった。
- ・改善・工夫の設問では、掲載内容、情報更新、サイト表記・利便性、周知方法などに関して、要望や提案を含め多くの意見が挙がり、中にはこれまでになかった視点での意見を拾い上げる事ができた。

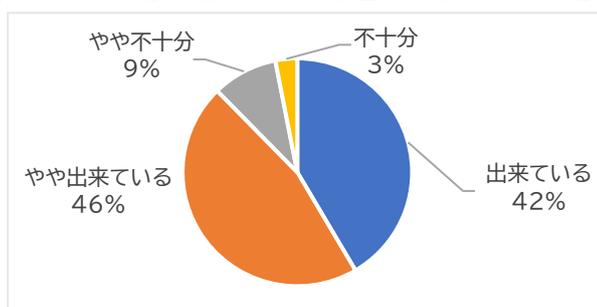
<今後に向けて>

- ・定期的な情報更新作業の継続。詳細情報の登録、更新についての協力依頼の継続。
- ・今回挙げた提案等を反映可能か、システムの確認を行う。
- ・適宜、他地区医師会とサイト利便性向上に向けた検討を行う。

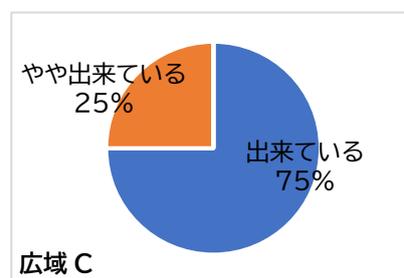
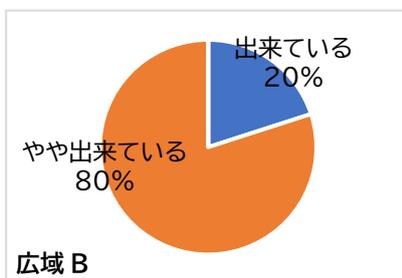
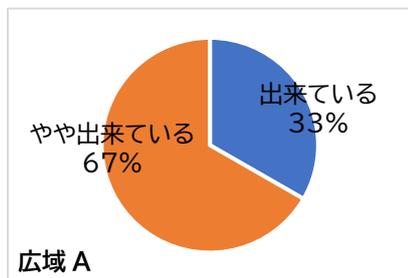
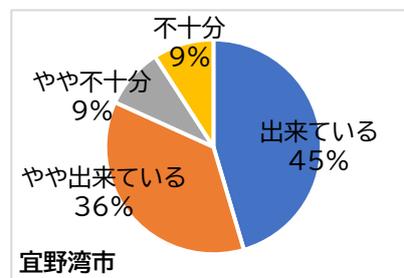
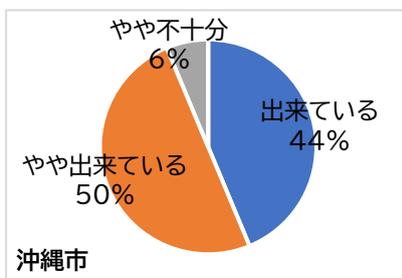
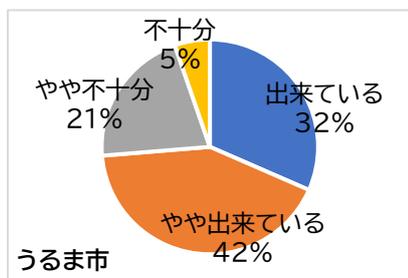
●在宅医療・介護連携推進会議の開催

4. 推進会議では地域における課題抽出・共有ができていますか。理由も教えてください。

出来ている	27	42%
やや出来ている	30	46%
やや不十分	6	9%
不十分	2	3%



ブロック別



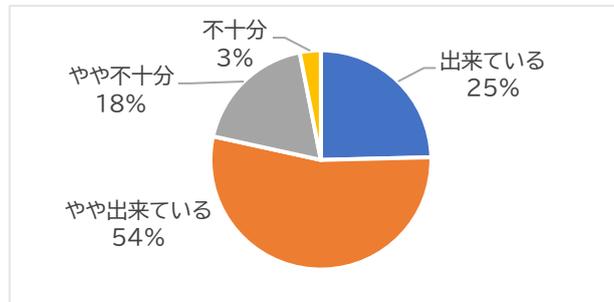
理由(一部抜粋)

出来ている	各施設代表者が地域の課題抽出しており、会議では情報共有ができていると思う。
	医療と介護の課題と現状が見えてきている。
	多職種とのつながりやそれぞれの課題を知ることができている。
	地域事業所や医療機関・行政などさまざまな分野でのディスカッションができている為。

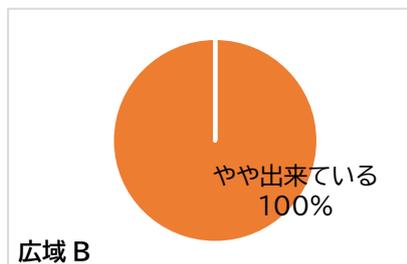
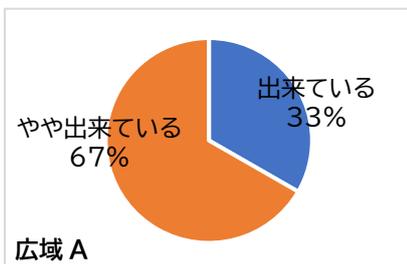
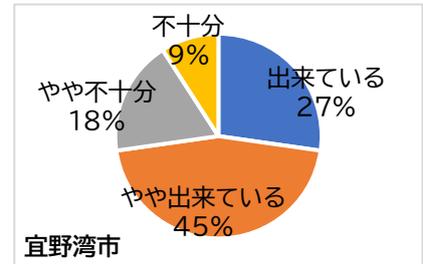
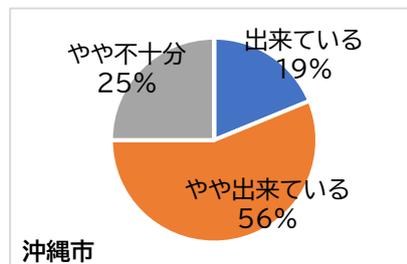
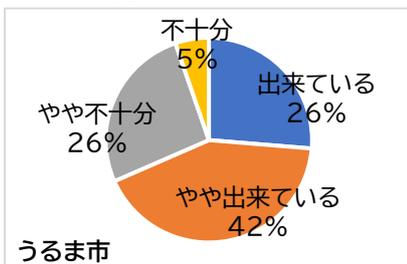
	積極的に発言する方が多く、ゆい丸センターも発言を受け止め、共有してくれているため 推進会議で意見なども聞きながら進められており、意見や課題に対しての回答や話し合 いが進められていると思う。
	各関係機関等とどのような連携が必要なのか明確になっている。
	各種アンケート調査など、資料をもとに話し合いができています。
	身寄りのない高齢者への課題はきちんと抽出出来ていると思う。
	グループワーク形式だと、課題抽出・共有し易いと思います。
やや出来て いる	各メンバーの問題点がだされ、そのゴールに向かって進められているため。
	推進会議に初めて参加した事で、今地域で何が問題になっているか知る事ができた。
	今年度はグループ分けされたことで具体的な困難課題が話しやすく抽出しやすかった。
	課題が多岐のため全部出しているかは不明。
	地域における課題抽出なので、医療機関・介護施設・包括だけで話し合う事には限界があ ると感じました。可能であれば、地域のことは自治会・公民館・学校などの機関と情報共 有・交換を行うことで、より掘り下げた議論が出来るのではないかと感じました。
前年度と比較すると、少し出来ているように感じる。	
	会議の時間では最重要事項のみディスカッションする仕組みが望ましいと感じます。 そのためには、事前の論点整理が不十分で、準備 8 割ですが、そこまでの準備ができて おらず、当日は不完全燃焼に終わることが多いと感じます。
やや不十分	コンセプト、行政・ゆい丸・会議参加者立の立場(立ち位置)があいまいだった。参加者に 伝わっていなかったのかもしれない。
	去年までは医療・介護の連携に役立つ内容であったが、今年度の課題については、あ まりピンときていない。この会議で話す内容なのかかわからず参加している。
	ツール利用の対象がよくわからない。また、ツール作成にあたる責任をどうするのか(対 象に起こっている症状と、ツールに記載されている症状の一致の有無だけで救急要請の 有無を判断するのは難しいと思いました。)
不十分	課題が毎回ブレていて抽出が出来ていない。

5. 推進会議で挙げた地域課題について、整理・対応策の検討がされていると思いますか。理由も教えて
ください。

出来ている	16	25%
やや出来ている	35	54%
やや不十分	12	18%
不十分	2	3%



ブロック別



理由(一部抜粋)

出来ている	会議では、単純に率直な意見や疑問を述べさせて頂きましたが、それを在宅ゆい丸センターさんが、きちんとまとめられ、次の段階に発展していているのですごいです。
	会議・交流会後に事業所や専門職への立場への理解やリスペクトが高まりました。
	整理されていて見やすい。
	今年度は適切な救急要請へ向けて、と課題を絞り、順序立てて対応策の検討を行っているため。救急要請については、医療機関においても、介護施設においても、包括支援センターにおいても課題と感じている人は多いと思うため、課題について深く整理・対応策の検討に取り組んでいると考えます。
	具体的に掘り下げて検討しており、地域性を踏まえた対応を考えている。
	会議を重ねるごとに方向性を見いだせている。
	話し合い協議、多種多様な意見を話せる場のため。
	議事録や振り返り資料などで検討されていることが分かりやすく示されている。
	課題について担当部署の担当と話しあったり解決に向けて取り組んでいる。
やや出来ている	会の進捗の中で検討内容が示されそのゴールに向かって進めてもらっているため。
	難しい課題ばかりであり、最終的にだれが何をするという部分がぼんやりとしている。
	一回の会議では解決できない課題に対しても二回、三回と対応されている。
	会議時間が短いためか結論まで至らないこともある。
	課題が多岐かつ難しいため手探りなのはやむを得ないと考えます。
	たくさんの課題が共有できる場なので、もっとたくさんのアクションができるポテンシャルを秘めている。
	自然災害について課題が散乱するなか自助を優先して検討する方向性については効果的と思いますが、まだ整理・対応策について検討が必要だと思います。
	多機関から地域課題が共有され、課題解決に向かっている。
	どれが正解とかはなく、皆の意見を聞いて対応策を必要に応じて適応しているため。
	住民の声が足りないと思うから。
議題について整理・対応策の検討は行っているが、対策の周知や評価については課題があると思います。	
会議の最後にそれぞれの意見を司会者が整理し共有できている。	
課題に対し、各委員の活発な意見や考えがでている。具体的対応に関してはこれからの課題。	
当然ながら解決へのロードマップが見えないからです。焦る必要はないと思いますが。	
やや不十分	自院(事業所)へ持ち帰ることは出来ているが、地域全体で考えた場合には、より大きな企画取り組みが必要。
	行政やゆい丸の立場と参加者に期待していることの明示が必要と思われる。
	身寄りなし問題など、行政の具体的な対応が求められることについては、今の参加者では対応策が検討難しいと思った。
	今回課題はいろいろ挙がったがテーマ選択に時間を要し、テーマ決定までに推進会議の時間を費やしたと思う。
	委託事業のため医師会のほうである程度テーマの方向性や選別し2択程度まで絞ってもらったほうが対応策についての時間を確保できると思う。
身寄りのいない高齢者にフォーカスをあてているが、課題は抽出出来ているが、その次の展開には至っていないのかと思う。身寄りのない方の入院調整の難しさや、本来家族が行う役割をケアマネに押し付ける等、検討すると言うが実際には進んでいない。	

<結果・考察>

- ・課題の抽出・共有は、全ブロック総合して88%の方が「出来ている」「やや出来ている」と回答した。ブロック別に見ると、若干の偏りが見られた。ブロックによって協議テーマが異なっている事も一つの要因と考えられる。
- ・課題の整理・対応策の検討は、全ブロック総合して79%の方が「出来ている」「やや出来ている」と回答し

た。前項と比較すると、「出来ている」「やや出来ている」が9%下がっているが、前年度アンケート結果ではこの差が17%であった事から、前年度より推進会議の質が向上している結果であると推測する。

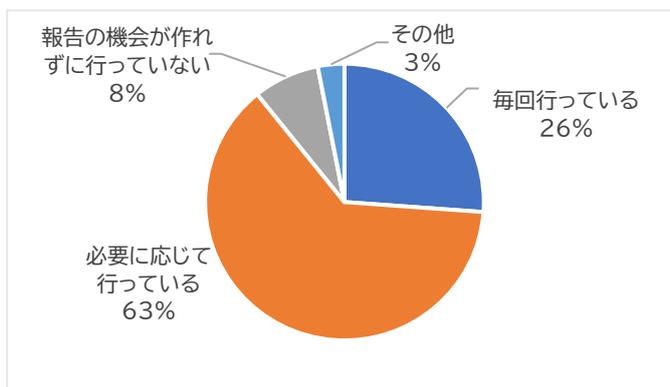
・「やや不十分」「不十分」と回答した理由として、会議参加者への期待や立ち位置の明示、協議テーマ・課題が大きく現メンバーでの協議が難しい、協議テーマ選定に時間がかかっている等が挙げられた。

<今後に向けて>

- ・推進会議における1年間の協議テーマ設定の継続およびテーマ選定方法の検討。
- ・推進会議における当センター、行政、委員の立ち位置や役割を明確にして伝える。
- ・特に解決が難しい課題・テーマに関する協議の進め方、計画の組み立て方の検討。

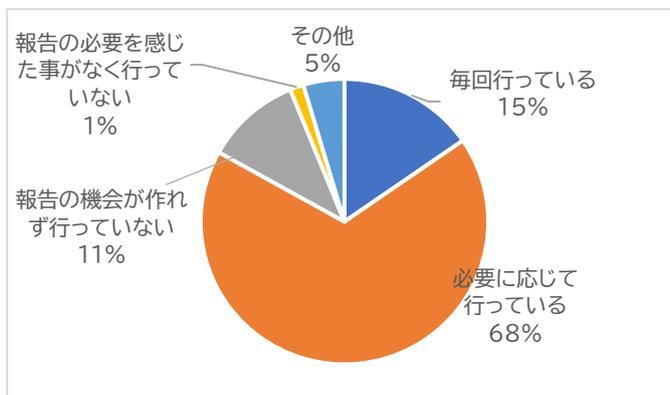
6. 推進会議で話し合われた地域課題・対応策について、各専門職団体・所属部署等に持ち帰り内容についての報告を行ったことがありますか。

毎回行っている	17	26%
必要に応じて行っている	41	63%
報告の機会が作れずに行っていない	5	8%
報告の必要を感じたことがなく行っていない	0	0%
その他	2	3%



7. 推進会議で話し合われた地域課題・対応策について、各専門職団体・所属部署等に持ち帰り内容についての検討を行ったことがありますか。

毎回行っている	10	15%
必要に応じて行っている	44	68%
報告の機会が作れずに行っていない	7	11%
報告の必要を感じたことがなく行っていない	1	2%
その他	3	5%



<結果・考察>

- ・推進会議内容を各専門職団体・所属部署等に持ち帰り、報告や検討を「毎回行っている」「必要に応じて行っている」と回答した方は、いずれも80%を超えている事が分かった。
- ・「その他」と回答した方の理由は、会議欠席のため、会議参加が個人案件となっているためであった。

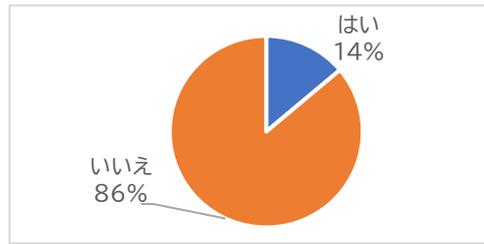
<今後に向けて>

- ・委員依頼の際に、本人や専門職団体・所属部署(機関)へ、当事業や推進会議の意義目的について説明を行う。
- ・持ち帰り、報告・検討してもらいたい会議内容を明確にして伝える。

●相談支援

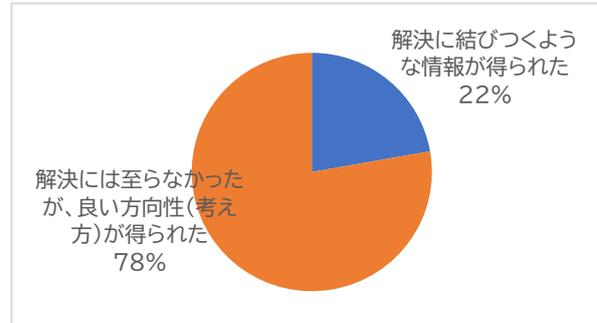
8. 当窓口へ相談したことはありますか。

はい	9	14%
いいえ	56	86%



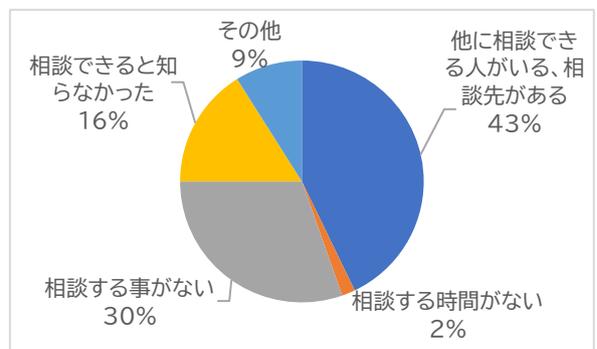
9. 設問 8 で「はい」と答えた方に伺います。相談した際に有益な情報が得られましたか。

解決に結びつくような情報が得られた	2	22%
解決には至らなかったが、良い方向性(考え方)が得られた	7	78%
有益な情報は得られなかった	0	0%



10. 設問 8 で「いいえ」と答えた方に伺います。相談したことがない理由について教えてください。

他に相談できる人がいる、相談先がある	24	43%
相談する時間がない	1	2%
相談する事がない	17	30%
相談できると知らなかった	9	16%
その他	5	9%



<結果・考察>

- ・相談した事があると回答した方は9名 14%と少なかったが、全員が「解決に結びつくような情報が得られた」「解決には至らなかったが、良い方向性(考え方)が得られた」と回答した。
- ・「相談できると知らなかった」と回答した方は、全員が委員任期1～2年目であった。
- ・「その他」と回答した方の理由としては、相談まで至らない、相談する事がない、どこまで相談可能なのか分からない等であった。

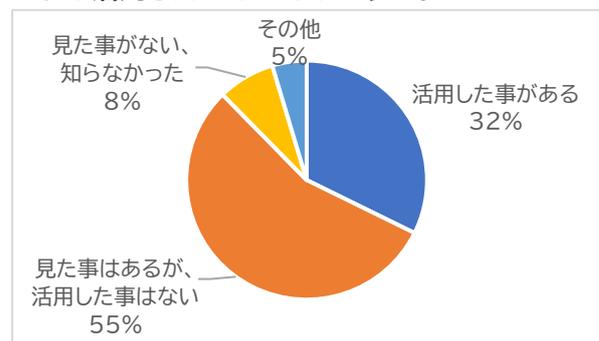
<今後に向けて>

- ・相談窓口の対応可能な相談内容の例を明示する。(ホームページにてQ&A形式で掲載する等)
- ・引き続き、推進会議にて相談内容及び対応内容を共有する。

●地域住民向け普及啓発活動

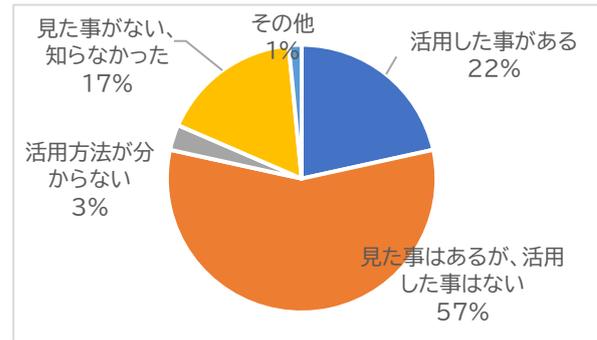
11. 当センターで平成 30 年度に制作したエンディングノートを活用したことはありますか。

活用した事がある	21	32%
見た事はあるが、活用した事はない	36	55%
活用方法が分からない	0	0%
見た事がない、知らなかった	5	8%
その他	3	5%



12. 当センターで令和2年度に制作した ACP(人生会議)アニメーション動画や短編漫画を活用したことはありますか。

活用した事がある	14	22%
見た事はあるが、活用した事はない	37	57%
活用方法が分からない	2	3%
見た事がない、知らなかった	11	17%
その他	1	2%



13. 今後、どのような取り組みが必要だと思いませんか。(回答一部抜粋)

方法	地域に合わせ、自治会等での定期的な広報の継続。
	継続して ACP 活動が続ける。自治会レベルでの活動の継続。
	認知度あげるために、SNS アカウント開設とかいいがでしょうか。
	一般住民向けよりも、医療従事者向けの ACP への取り組みを進める必要があると感じます。
	劇や映画など、ある程度、尺をもって刷り込むイメージが良いのかと感じる。
	ゆい丸センターホームページ内の情報(県医師会勉強会動画・ダウンロード資料・お助けマップなど)を専門職が活用し必要な方へ情報提供できるように周知活動を行うと良いと思います。
	行政や金融機関などで終活に関する(DVD やビデオ)で事前の備えを紹介するビデオを流しても良いと思う。例:エンディングノートの活用、ACP 動画、お墓の紹介など
内容	地域に対する看取りの啓蒙。
	同じ内容でも良いので地域住民へ周知を繰り返すこと。
	個別性が高い課題についてなんらかの解決につながるような情報共有。
	引き続き、地域での普及が必要だと考えます。包括職員としても、自治会等でもしバナゲーム体験会を実施する等、普及していきたいです。
	施設やケアマネ、地域の包括等への定期的な啓蒙運動が必要。
	実際に、在宅ゆい丸センターが携わっている在宅医療での成功例(医療と介護が連携して患者様とその人らしく人生を全うした、など)の紹介などがあると参考に出来るのではないかと感じます。介護施設では見る事が難しいケースでも、在宅では対応が可能など、またその逆もあると思うので、是非、成功例があれば共有させていただきたいです。
	今の取り組みを継続させること、新しい案が出たら挑戦することが必要だと思う。

<結果・考察>

- ・各種ツールの認知度等を比較すると、エンディングノートを「活用方法が分からない」「見た事がない、知らなかった」と回答した方は 10%未満であったが、コロナ禍の令和2年度に作成した ACP アニメーション動画は 20%あり、周知不足である事が分かった。
- ・「その他」と回答した方の理由は、他課職員が活用している、ご家族へ情報提供している等であった。
- ・地域住民への今後の普及啓発活動に関しては、活動の継続に対する意見が一番多く、映画や劇、新しい企画への挑戦などが挙げられた。

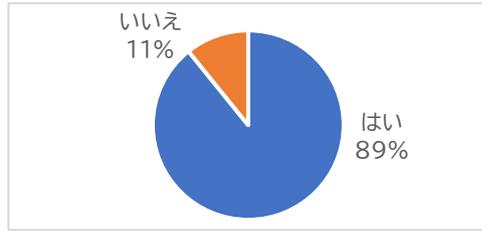
<今後に向けて>

- ・各種普及啓発ツールの周知強化、普及啓発活動の継続。
- ・発信する情報および内容・方法について効果的な手段の検討。

●医療・介護関係者の情報共有支援

14. 当センターのホームページをご覧になったことはありますか。

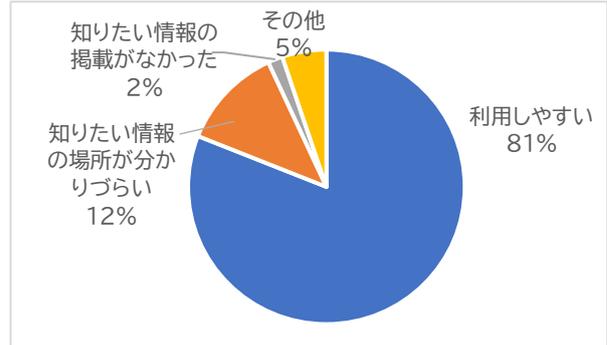
はい	58	89%
いいえ	7	11%



15. 設問 14 で「はい」と答えた方に伺います。

当センターのホームページ使いやすさはいかがですか。

利用しやすい	47	81%
知りたい情報の場所が分かりづらい	7	12%
知りたい情報の掲載がなかった	1	2%
その他	3	5%



・ホームページを知らせた 40～50 代ご家族より「わかりやすかった」と 2 件の報告を受けた。

<結果・考察>

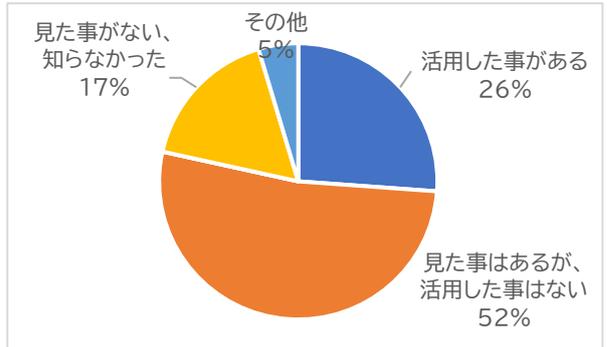
- ・58名 89%の方がホームページを見た事があり、うち47名 81%が「利用しやすい」と回答した。利用した事がある方の多くは概ね満足している事が分かった。
- ・「知りたい情報の場所が分かりづらい」と回答した方が7名 12%いた。前年度アンケート結果と同数であり、今年度リニューアル等を行えなかった事が一つの要因であると考えられる。

<今後に向けて>

- ・ホームページの利便性、レイアウト、見やすさに関する検討を行う。

16. 当センターでは平成 30 年度に入退院時の連携支援ツールとして入退院支援連携マナーブックを作成しました。活用したことがありますか。

活用した事がある	17	26%
見た事はあるが、活用した事はない	34	52%
活用方法が分からない	0	0%
見た事がない、知らなかった	11	17%
その他	3	5%



・活用してみたい
・原本のままではなく一部別の資料に活用した

17. 設問 16 で「活用したことがある」と答えた方に伺います。

とくに活用できた部分と改善が必要な部分について教えてください。（回答一部抜粋）

活用できた部分	連携先がわかりやすかった。
	素晴らしくよくできている。
	病院の機能や介護サービスの説明に活用できた。
	医療機関の窓口一覧。救急搬送の原因疾患分類。

	相手側にとって必要な項目及び情報。
	入退院連携支援における共通マナーと病院とケアマネの動き、加算など。
	医療機関の情報、連絡先、入退院連携シート。
	医療機関の適切な連絡先などは特に助かった。相談が早く行えた。
	ご家族に病棟の機能を理解していただく時に説明がわかりやすいので活用させていただきました。
	病院連携時の連絡先として、連携室番号や担当部署の電話番号が記載されており、業務で役立っている。
	経験の浅い職員への指導用として活用している。
	医療機関、介護支援専門員が取得できる加算がしっかり記載がある、医療機関や介護施設の機能の詳細が記載されている。
	医療機関の種類を説明する時。医療保険の訪問看護についてなど。
改善が必要な部分	代表番号と連携が取りたい部署が同じで連絡が取り難いことがあった。
	住所が変わっていたりするので刷新あると助かります。
	病院の所在地の変更などの情報があると良いかも。アップデート。

<結果・考察>

- ・マナーブックを「活用した事がある」と回答した方は17名 26%に留まったが、その方々のマナーブック活用の満足度は高かった。特に、医療機関の窓口一覧、共通マナー、病院とケアマネの動き、加算、情報、病棟機能等のページが便利であり、職員研修等でも活用されている事が分かった。
- ・改善が必要な部分としては、病院の直通の連携窓口がなく連絡が取りづらい、情報の更新等であった。

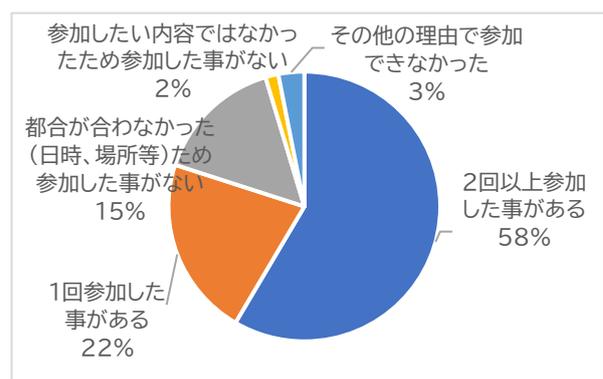
<今後に向けて>

- ・マナーブックの掲載情報、活用方法の紹介、周知強化。
- ・診療報酬、介護報酬改定の時期に情報更新を行う。

●医療・介護関係者への研修

18. 当センターでは毎年、医療・介護連携に関する研修会を開催しています。これまでに参加したことはありますか。

2回以上参加した事がある	38	58%
1回参加した事がある	14	22%
都合が合わなかった(日時、場所等)ため参加した事がない	10	15%
参加したい内容ではなかったため参加した事がない	1	2%
その他の理由で参加できなかった	2	3%



- ・関連性が薄いため
- ・担当職員へ参加を促している

19. 研修会の内容に関するご提案やご要望、その他運営に関して改善点等がございましたら教えてください。(回答一部抜粋)

内容	多職種が集まる研修なので、とても参考になります。
	入職もない職員やベテラン層まで、なるべく多く参加してもらいたので、さまざまなテーマで引き続き企画していただくと助かります。
	もっと病院側の医療者が地域との連携や実際について知れる研修などはどうか。
	家庭医の雰囲気もあると思いますが、すごく演者と参加者の距離も近くとてもいい雰囲気

	<p>気と運営だと思えます。一方で話が膨らんで、時間があつという間なので規模や時間もさらに工夫・拡充できるのかなと感じました</p> <p>研修会のテーマに沿ったモデルケースがある場合は、解決までの一連の流れや使用した制度等を教えてもらえると参加者の満足感が得られるかと思う。</p> <p>経験が浅い職員向けの研修があれば参加したいです。</p> <p>地域の自治体や公民館等と一緒に介護・医療の推進に取り組んでいけたら、と感じます。</p> <p>地域でどのような活動や繋がりがあるかなど知りたい。</p> <p>Dr に対する在宅医療連携についての研修会はあるのか？協力頂いている諸先生方と同じ考え方が地域 Dr 全体に広がってほしい。</p> <p>多人数になるので、十分な意見交換ができない印象もある。</p> <p>救急救命が必要なケースで、身寄りのない高齢者やご家族等が遠隔地にいてすぐに駆け付けられない場合、施設側・事業所側としてどのような対応がとれるのか、を教えていただくとありがたい。施設側が医療機関に対し医療行為への同意を求められた場合、どのような問題が考えられるのか、それに対しどのような準備をしておくとの良いのか、など。</p> <p>施設間の横のつながりがより作られるような取り組みができ、そのニーズを吸い上げやすいようにできるのが理想です。</p>
曜日・時間帯	<p>平日午後や土曜午前などの開催を希望。</p> <p>時間が遅いので早めにはできないか。</p>
方法	<p>現場職員が研修へ参加できるように、平日で WEB 参加をお願いしたい。</p> <p>ズーム研修もこれまで通り続けて欲しい。</p>

<結果・考察>

- ・研修会に「1回」「2回以上」参加した事があると回答した方は、計25名 80%であった。アンケートに回答した方の半数以上が2回以上参加した事があり、有益な研修会が開催できていると考えられる。
- ・都合が合わず参加できなかった方は10名 15%おり、日中開催や Zoom 併用開催を希望する方が複数名いた。
- ・今後の研修会内容に関して、病院側・医師との連携、地域のモデルケース情報共有、経験が浅い職員向け、救急等、多くの意見や提案が挙がった。

<今後に向けて>

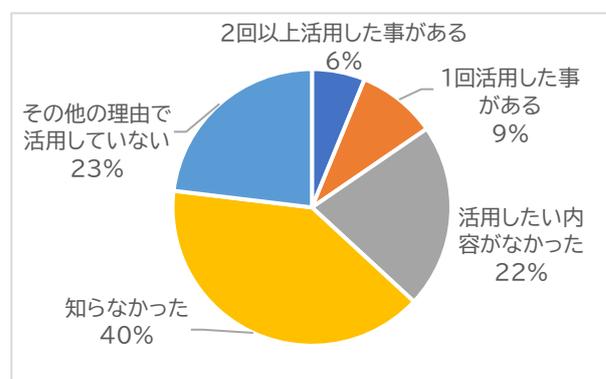
- ・開催時間帯、Zoom併用開催の検討を行う。
- ・現場のニーズに合った研修内容の検討を行う。

20. 当センターでは事業所内の研修等で活用していただけるよう、貸出 DVD 研修を実施しています。

活用したことがありますか。

2回以上活用した事がある	4	6%
1回活用した事がある	6	9%
活用したい内容がなかった	14	22%
知らなかった	26	40%
その他の理由で活用していない	15	23%

・知っているが活用した事がない	4
・機会がなかった	4
・活用する時間がない	1
・その他	4
・今後活用したい	2



<結果・考察>

- ・貸出 DVD 研修を「1回」「2回以上」活用した事があると回答した方は、計10名15%であった。
- ・「知らなかった」と回答した方が26名 40%いたが、貸出 DVD 研修の案内対象を介護事業所としており、知らなかった方の大多数は対象外の事業所であった。

<今後に向けて>

- ・貸出 DVD 研修の継続。
- ・周知方法、範囲の検討。研修(DVD)内容の検討。

21. 貴会で、他専門職団体や他施設との意見交換会・研修会など、多職種連携の構築推進へ向けた取り組みを行っていますか。行っている取り組みがございましたら、その内容を教えてください。

病院看護師	県看護協会の地区委員のなかでも看看連携などの課題や意見交換を行っているが、解決策の決定権が不明確であり、結果何も進まない状況が続いている。
薬剤師	近隣の CL、訪問看護との勉強会。 訪問薬剤を広げるために研修や多職種との連携
施設管理者・相談員	社会福祉連携推進法人が 11 月に設立され、5つの法人(介護・保育・障害・学校等)で新たな取り組みが始まっている。 看取りについて。 嘱託医がもろもろの理由で看取り対応が難しい状況です。しかし、近隣のクリニック、医療機関が協力してくださり、施設での看取りが可能になっております。 施設⇄医療機関・クリニックと連携をとらせていただいております。 沖縄県認知症 GH 協会、宜野湾市 GH 協会 はーとネットワークへの参加
包括	地域ケア会議(個別も含む) イベント 事例検討会 包括主催で、圏域の事業所(去年はデイサービス事業所)と情報交換会 毎月勉強会がある ケアマネ協会宜野湾支部や市社協とは定期的に意見交換する場がある。
ケアマネジャー	多職種交流会への参加や企画 うるまブロックと包括合同での研修 他法人の居宅介護支援事業所と合同による事例検討会
MSW・入退院看護師	沖縄県デザイン事業 年に1度交流会を実施している 法人内の取り組みで、身寄りのない困難ケースに対し、包括ケア病棟、精神科、老人保健施設、居宅などが集まり皆で課題解決に努めた。 地域の医療機関、介護施設との意見交換、勉強会を実施している 急性期在宅ケア交流会、地域支援病院委員会、神経内科や整形外科カンファレンス(近隣の回復期病院の職員参加あり)、他施設訪問
医師	うるま市関係者から、当院に外来診察、往診、訪問看護を受ける際は事前相談、連携会議、随時の連絡・連携などを通じて顔の見える関係性が構築できるようシステム化している。 症例カンファレンス、デスカンファレンス
訪問看護師	当事業所内の勉強会や法定研修の際に、地域の介護施設、事業所へ声掛けし一緒に研修を行った。

<結果・考察>

- ・多くの委員の方が、それぞれの地域や必要な職種・事業所との意見交換会や勉強会等を実施されている事が分かった。多職種連携、顔の見える関係づくりの重要性・必要性を感じ取る事ができた。

<今後に向けて>

- ・他事業や他団体の活動(意見交換会、勉強会、研修会等)への参加、繋がり強化。

●その他ご意見・ご感想

・在宅ゆい丸センターの活動についてご提案等がありましたらご記入ください。(回答一部抜粋)

現活動への感想	在宅ゆい丸センターさんと関わるようになって、業務、自身の気持ちが向上しているのは事実です。勉強になっています。
	大変な業務だと思うが、たゆまぬ活動を継続していただきたい。
	今後も、相談窓口として地域の声を聞いて欲しいと思います。
	いつも推進委員の意見をまとめたり、会議の進行をしたりと大変だと思いますが、方向性が決まるまでは主導で動いていただいたほうがスムーズかと思います。
	次年度は、出前講座を利用しながら地域に関わっていきたいと思っています。
	在宅ゆい丸センターのホームページを活用し、専門職や地域住民へ情報提供や周知活動に努めていきたいです。
	地域連携や介護、医療に関する様々な取り組み、幅広く活動されており、なくてはならない機関だと思います。マップやマナーブック、エンディングノートなどは、大事なことを知ることができ、またどうしたらいいかをわかりやすく、いろいろ工夫されており活用しています。
	会議をしっかりポイントをまとめ課題が明確にできいつも勉強になります。
	研修の質がとても上がっていると思う。今後はその研修に、日頃参加しない人たちがどう巻き込むかが課題なのかと。また一緒に考えていけたらと思います。
提案	Instagramで活動を拝見させていただいています！意見はとくにないですが、言うとしたらプライバシー保護の観点では難しいとは思いますが、実際に在宅を支えた事例の一部を(例えばご家族のお話、エンディングノートを実際に使っている人の感想など)みせることができればもっともっと活動が表にみえてくるのではないかと思います。
	身寄りのない方の会議を長年しているので、周知されていると思います。提案としては、在宅ゆい丸センターが保証人の会社を設立することは出来ないのでしょうか。実際に、保証人をやることで見えてくるものがあるのではと思いました。
	BCP・虐待など義務化された研修の開催。
	うるま市において、生活保護の方に訪問薬剤が介入できずに、やむなく無償で行っているケースがあると聞いています。推進会議で取り上げて頂ければ幸いです。
その他意見	今後、独居高齢者、夫婦世帯が増えます。当事者である高齢者はもちろんのこと、これまで以上に施設とご家族との関係性が問われてくるように思います。ご家族との協力関係構築はいざという時のバックアップ体制となります。有料老人ホームでは、年1回、地域密着型サービスではそれ以上に家族と情報交換する場を設けることが求められています。そのように機会を利用して、エンディングノート、ACP、DNARについて勉強会もできればと考えております。(やること一杯あります)

<結果・考察>

・推進会議に参加して得られた感想や、当センター活動(会議・研修会テーマ)への意見・提案等、様々な声が挙がった。特に、現活動の継続や更なる周知に関する声が一番多く、当センター活動を有益と捉えられている方が多い事が分かった。

<今後に向けて>

- ・当センター活動の継続および当事業・当センターの周知強化。
- ・拾い上げた提案を次年度以降の活動へ反映可能か検討を行う。